

1. 令和元年度の野生鳥獣による農林業被害の発生状況と傾向について

1 概要

(1) 農林業被害の推移

山口県における野生鳥獣による農林業被害は、平成22年度をピークに減少傾向にあります。令和元年度の被害金額は、対前年度比8%減の4億3千6百万円となりました。

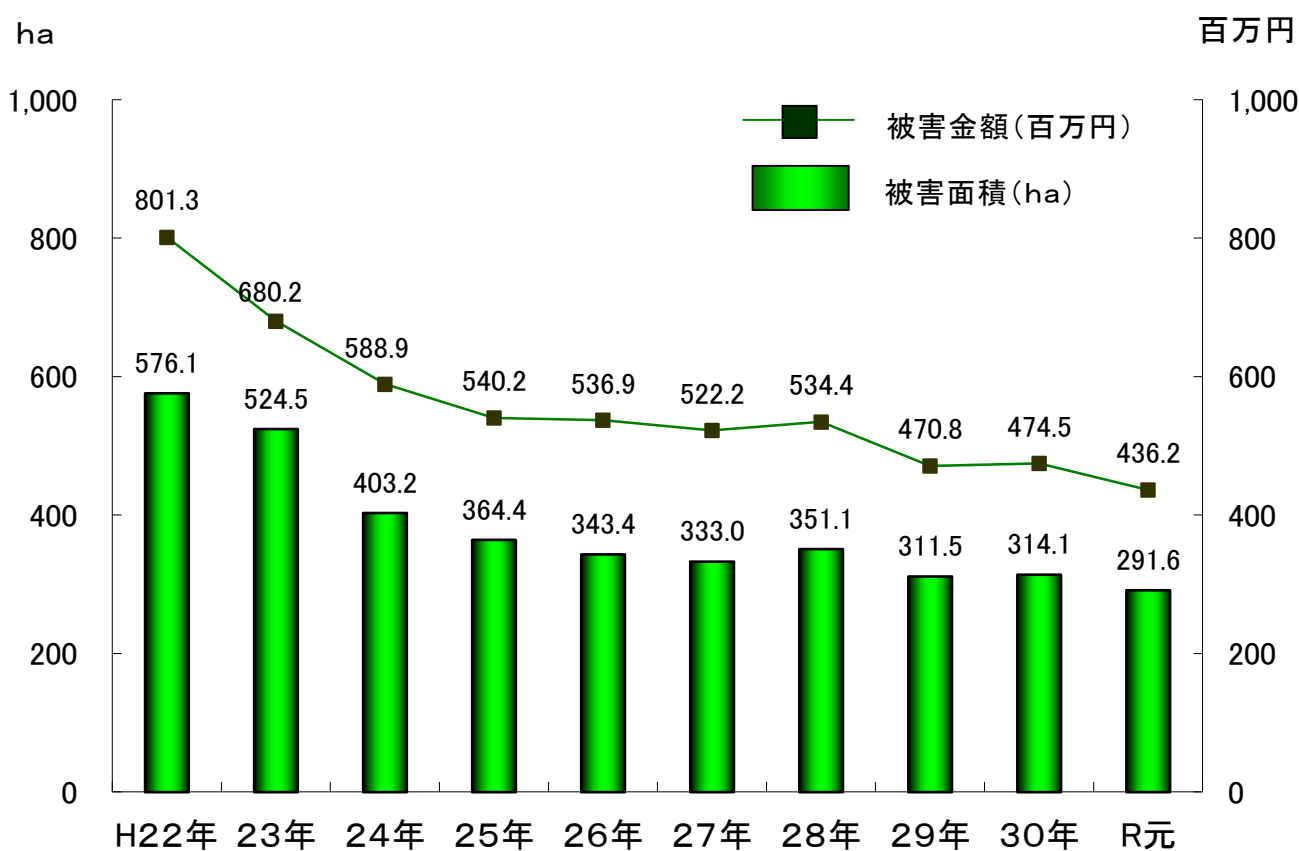


図-1 被害面積及び被害金額の推移（鳥獣被害全体）

(2) 鳥獣別・作物別被害の内訳

令和元年度の被害金額を鳥獣別に前年度と比較すると、イノシシ、シカは減少し、サルは被害が増加しています。

鳥獣別の被害金額は、獣類が3億8千5百万円（全体の88%）、鳥類が5千1百万円（全体の12%）となっています。

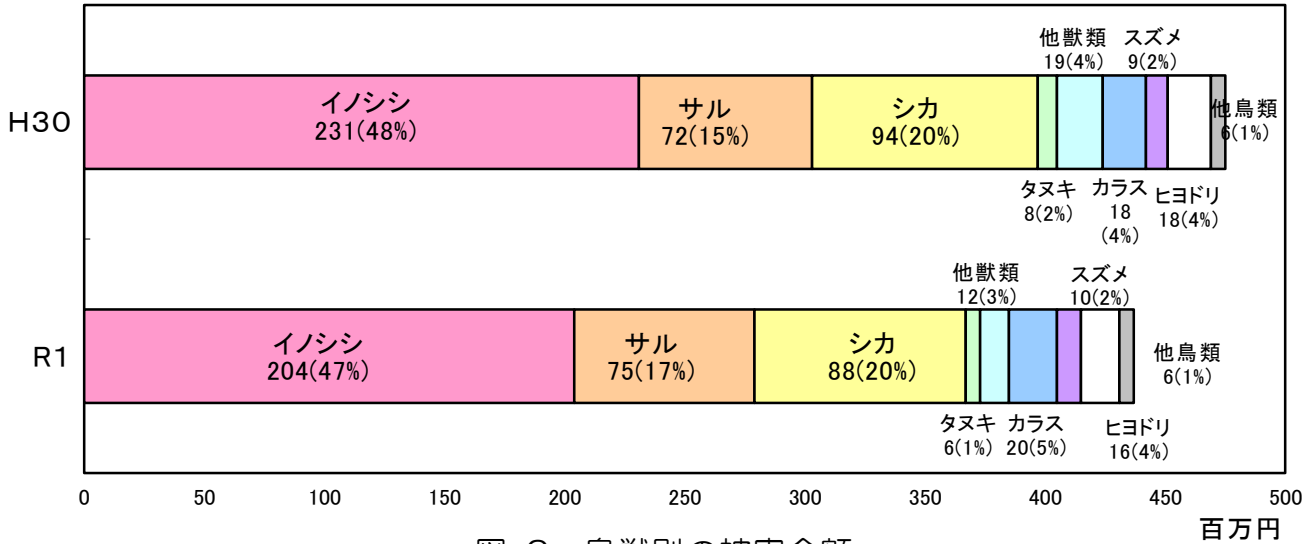


図-2 鳥獣別の被害金額

作物別に比較すると、水稲が約4割を占めています。

また、主要被害作物である水稲、野菜、果樹、造林木の被害は、いずれも減少しています。

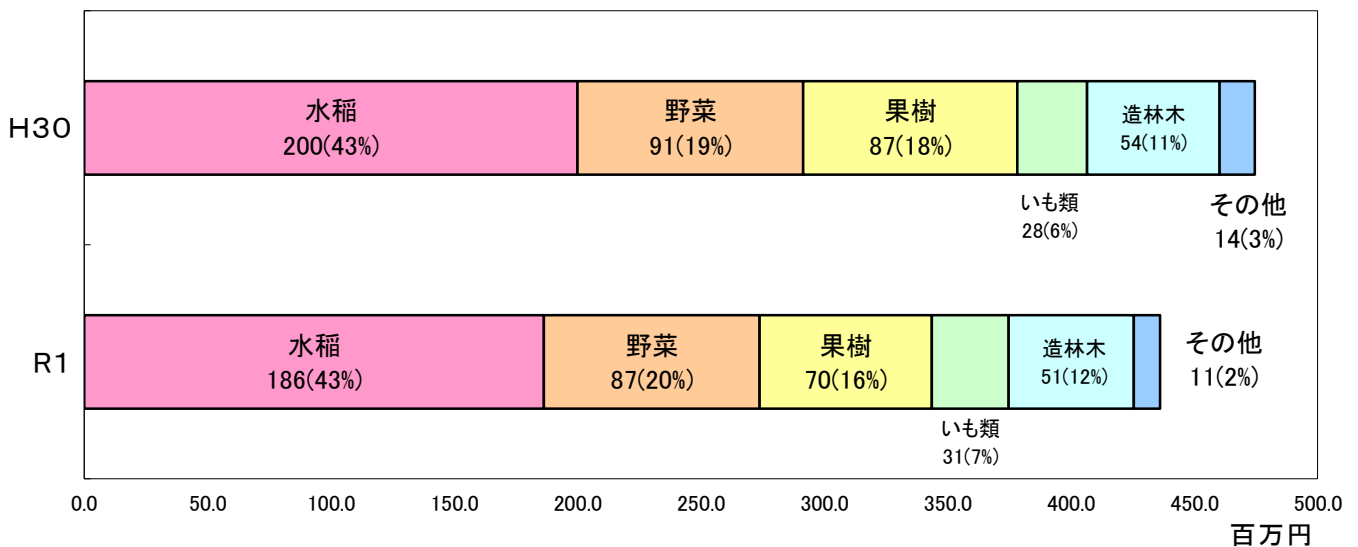


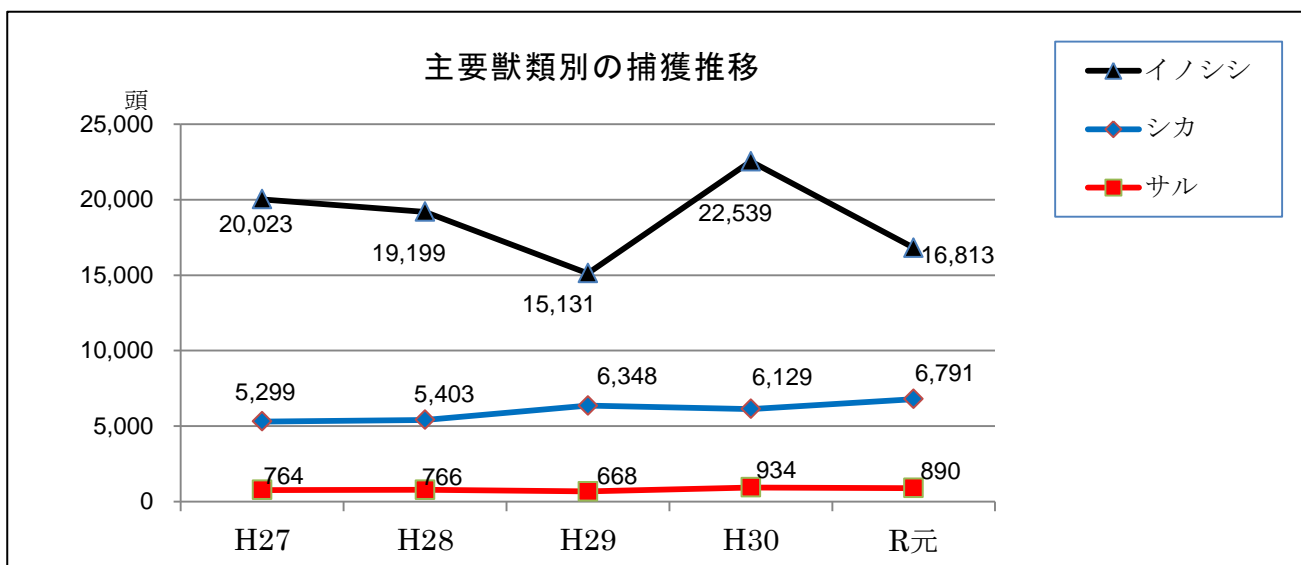
図-3 作物別の被害金額

【参考】

○主要獣類別の捕獲実績（速報値）

（単位：頭）

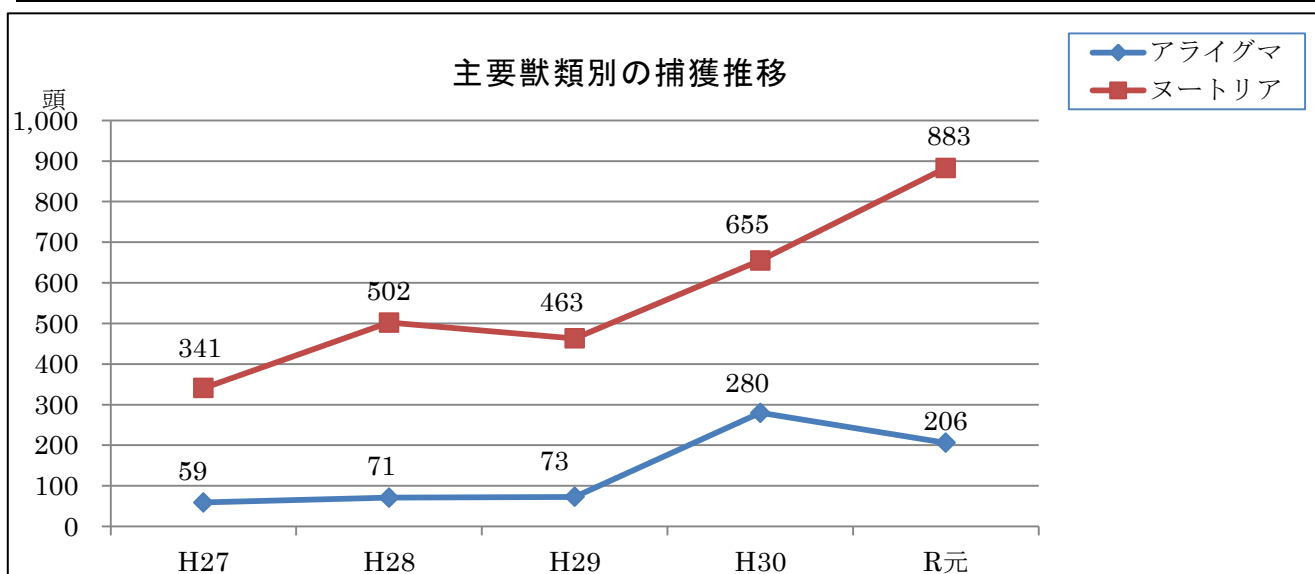
区分	H27	H28	H29	H30	R元	増減
イノシシ	20,023	19,199	15,131	22,539	16,813	▲5,726 頭(25.4%減)
シカ	5,299	5,403	6,348	6,129	6,791	+662 頭(10.8%増)
サル	764	766	668	934	890	▲44 頭(4.7%減)



○主要獣類別の捕獲実績（速報値）

（単位：頭）

区分	H27	H28	H29	H30	R元	増減
アライグマ	59	71	73	280	206	▲74 頭(26.4%減)
ヌートリア	341	502	463	655	883	+228 頭(34.8%増)



2 獣類別の被害状況

(1) イノシシ

イノシシによる農林業被害は、前年度比12%減の2億4百万円となり、過去10年間で最も少ない被害額となっています。

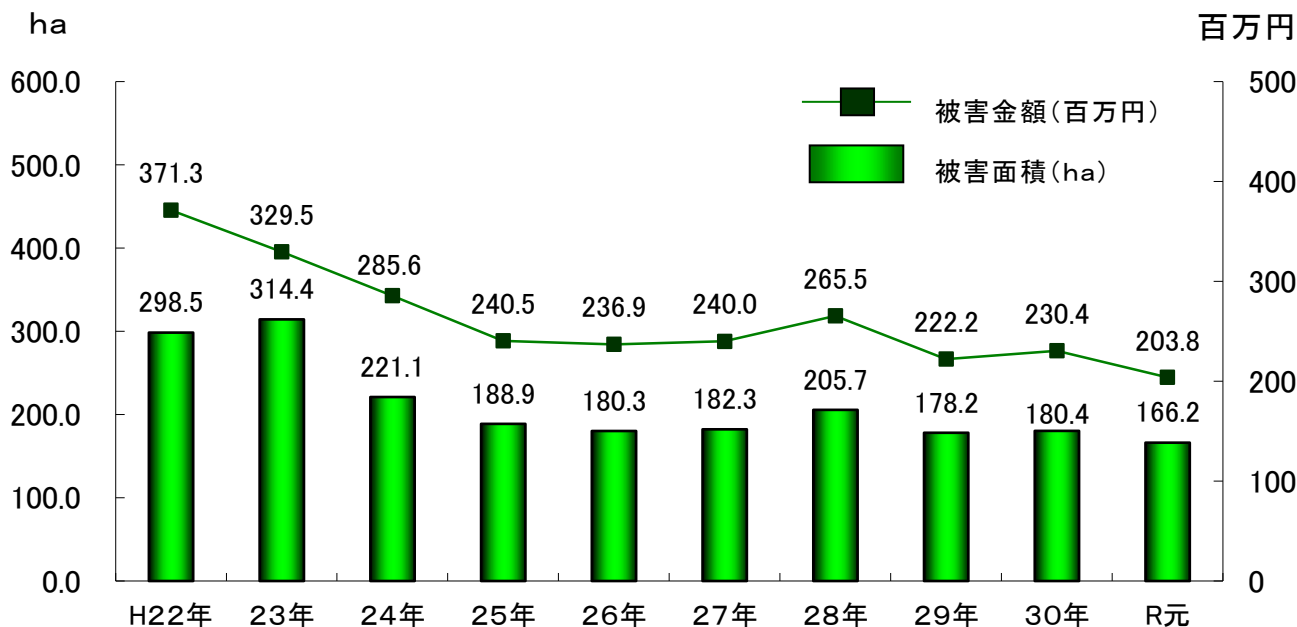


図-4 被害面積及び被害金額の推移 (イノシシ)

被害金額全体に占めるイノシシ被害の割合は4割強で推移しており、鳥獣による農林業被害の中で、最も深刻な影響を及ぼしています。

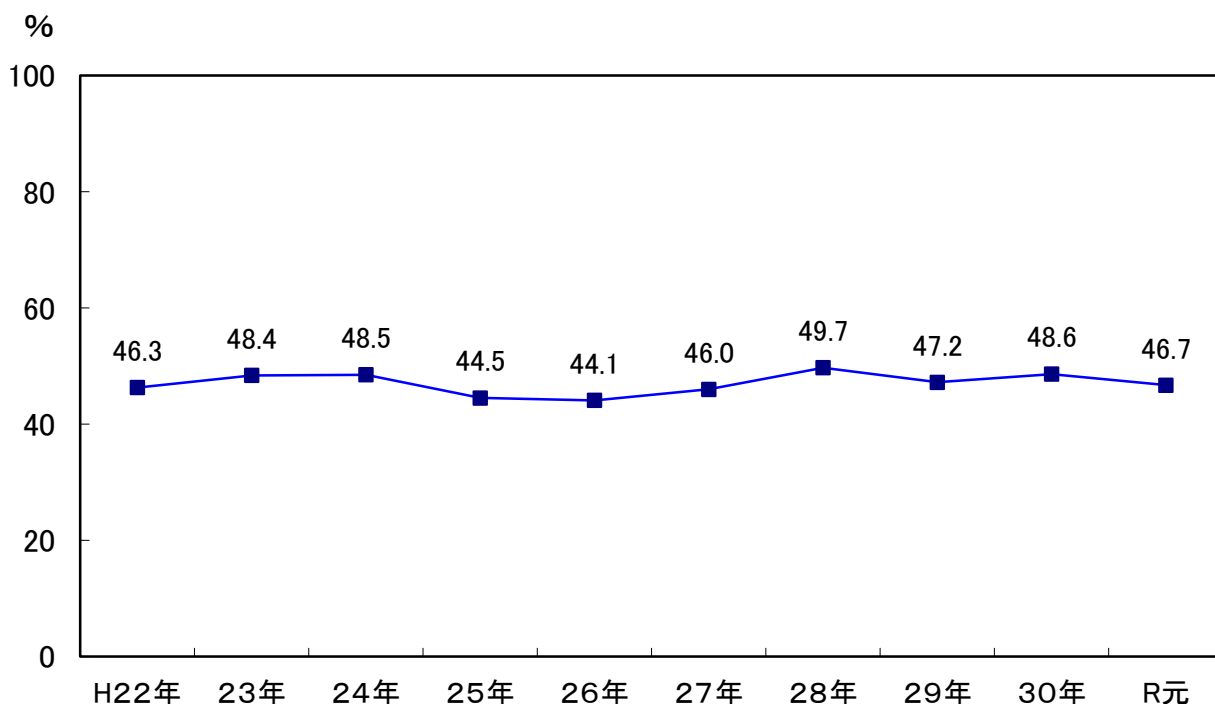


図-5 被害金額全体に占めるイノシシ被害の割合の推移

作物別の被害金額では、水稻が約1億3千6百万円と最も高く、被害金額全体の67%を占めており、次いでいも類、果樹、野菜の順になっています。

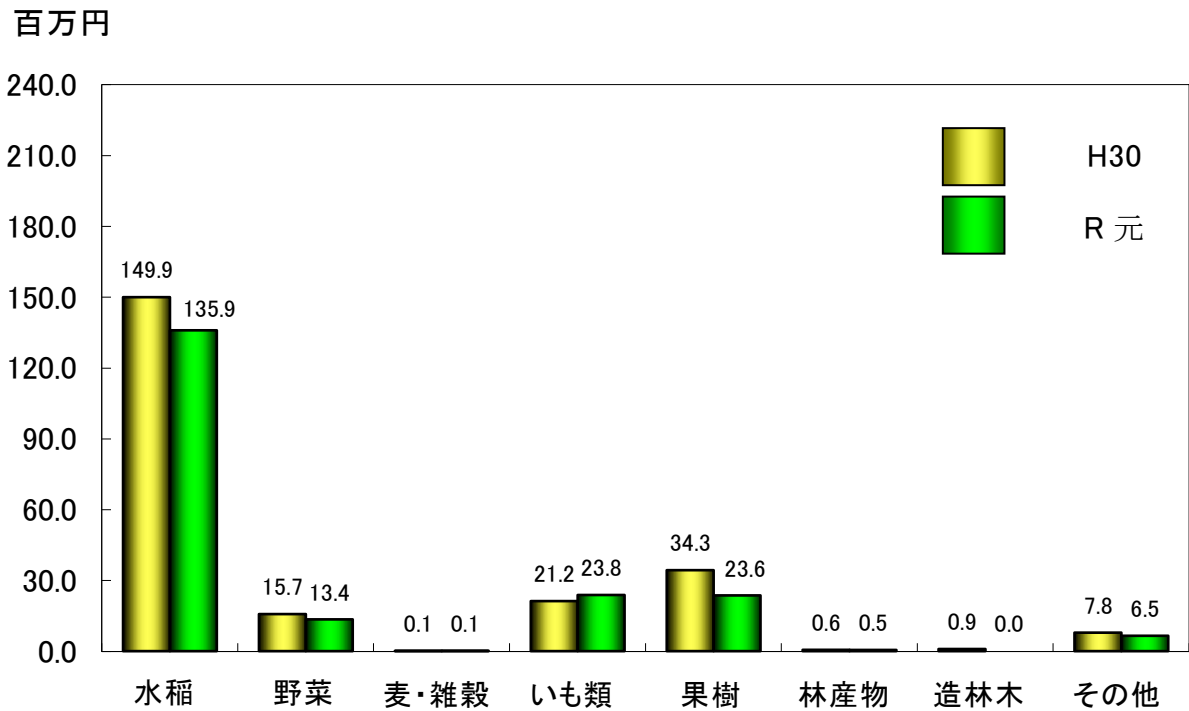


図-6 イノシシによる作物別被害金額

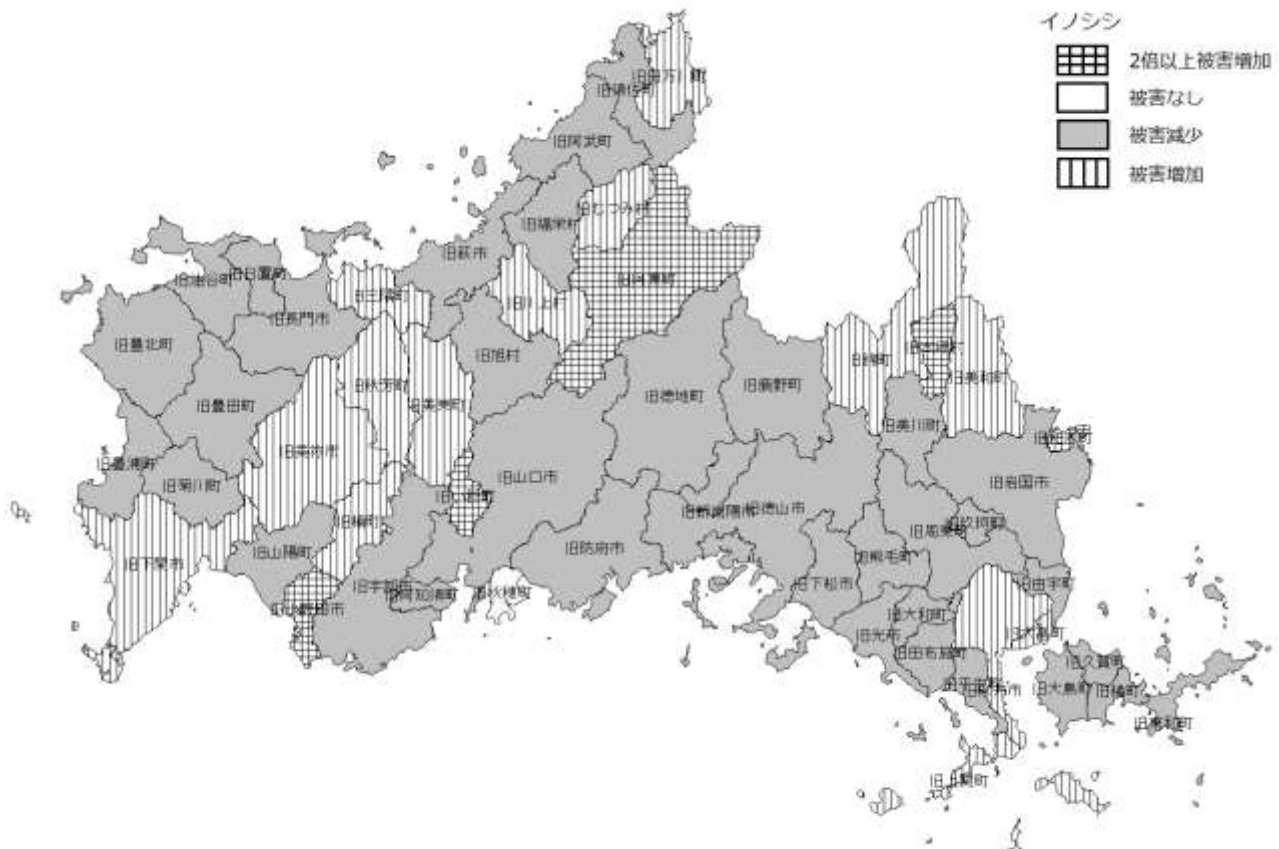


図-7 イノシシ被害の発生地域（旧市町村別被害額の増減）

(2) サル

サルによる農林業被害は平成25～27年度にかけて横ばい傾向にありましたが、平成28年度から再び被害が減少してきましたが、令和元年度は、対前年度比4%増の7千5百万円となっています。

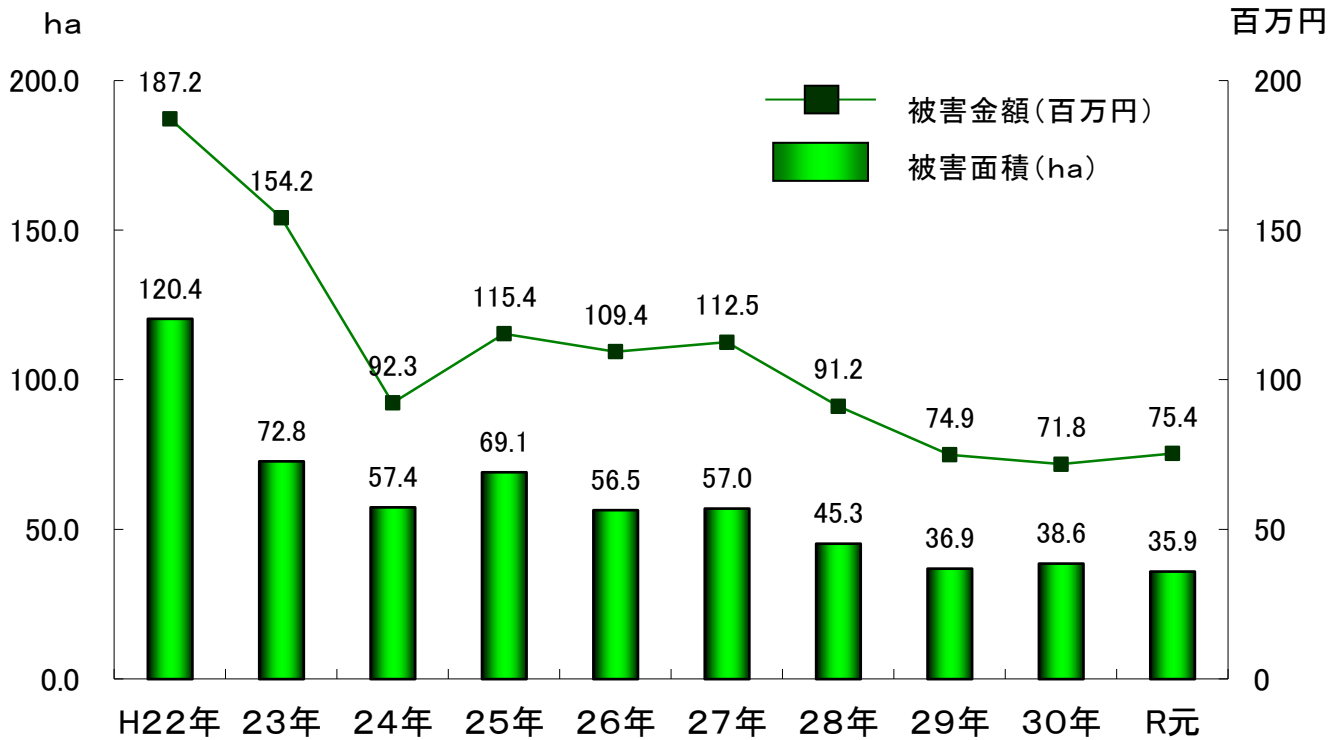


図-8 被害面積及び被害金額の推移 (サル)

被害金額全体に占めるサルの割合は、近年減少傾向にありましたが、令和元年度は、前年より2%被害割合が増加しました。

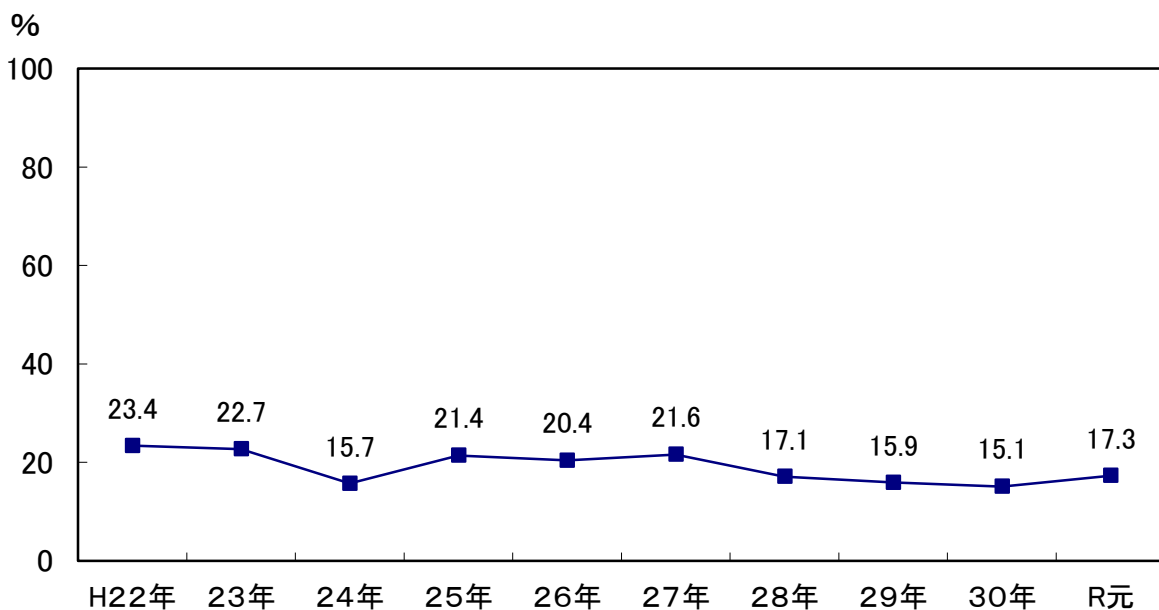


図-9 被害金額全体に占めるサル被害の割合の推移

作物別の被害金額では、野菜が4千7百万円と最も高く、被害金額全体の62%を占めており、次いで果樹、いも類、水稻の順になっています。

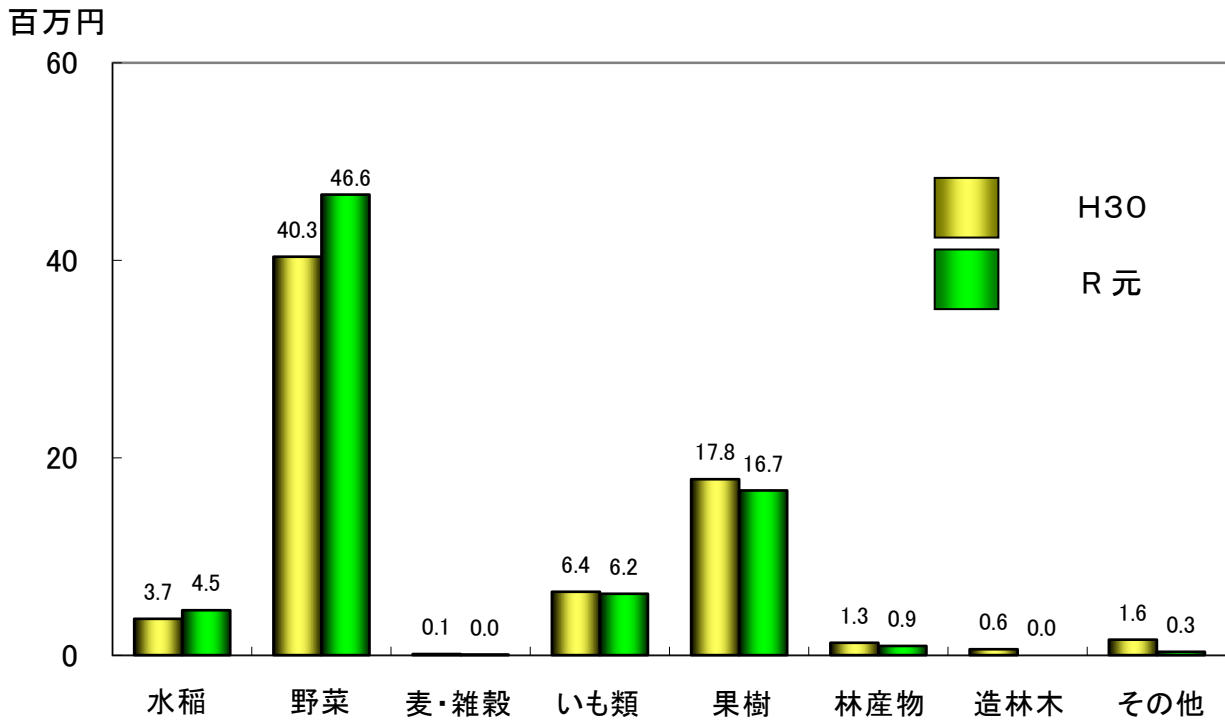


図-10 サルによる作物別被害金額

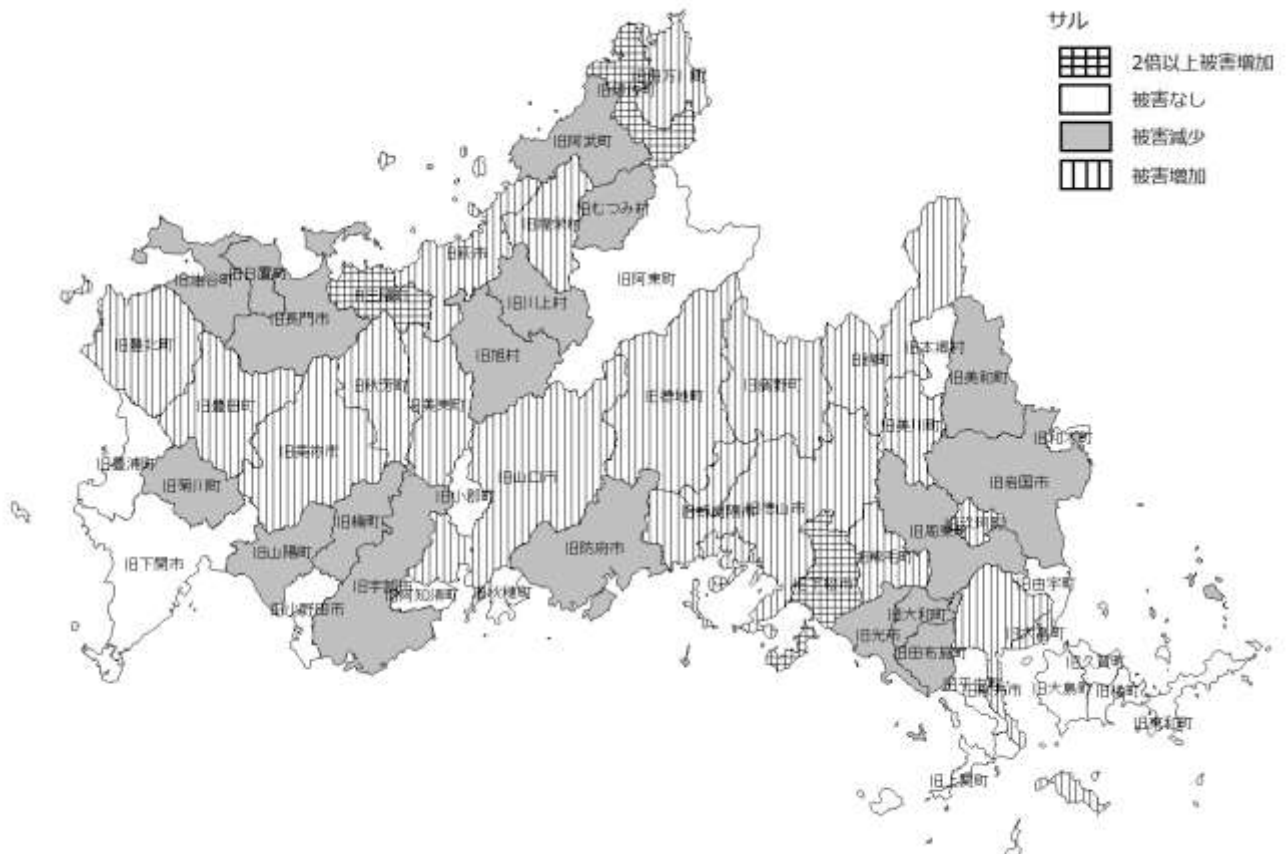


図-11 サル被害の発生地域（旧市町村別被害額の増減）

(3) シカ

シカによる被害はH29年度から減少傾向にあります。令和元年度は対前年度比7%減の8千8百万円となっています。

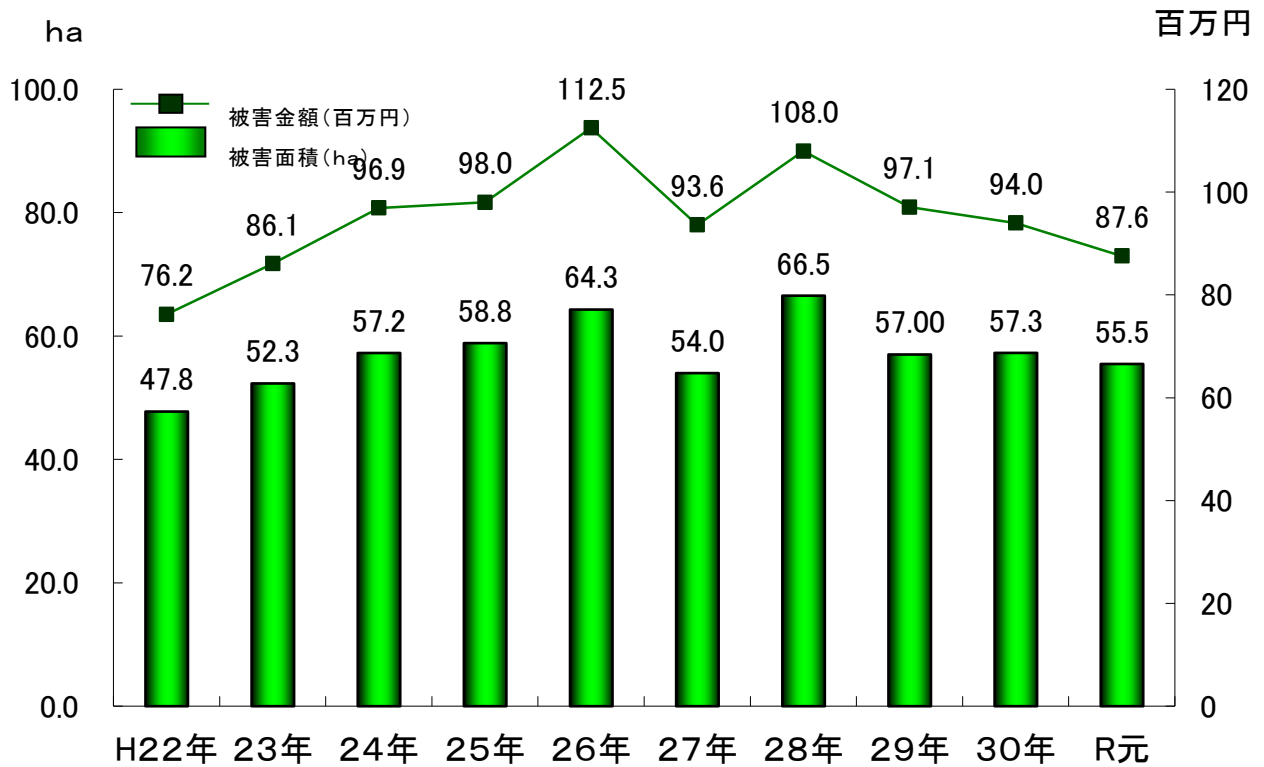


図-12 被害面積及び被害金額の推移 (シカ)

近年は、被害金額全体に占める割合は20%前後で推移しています。

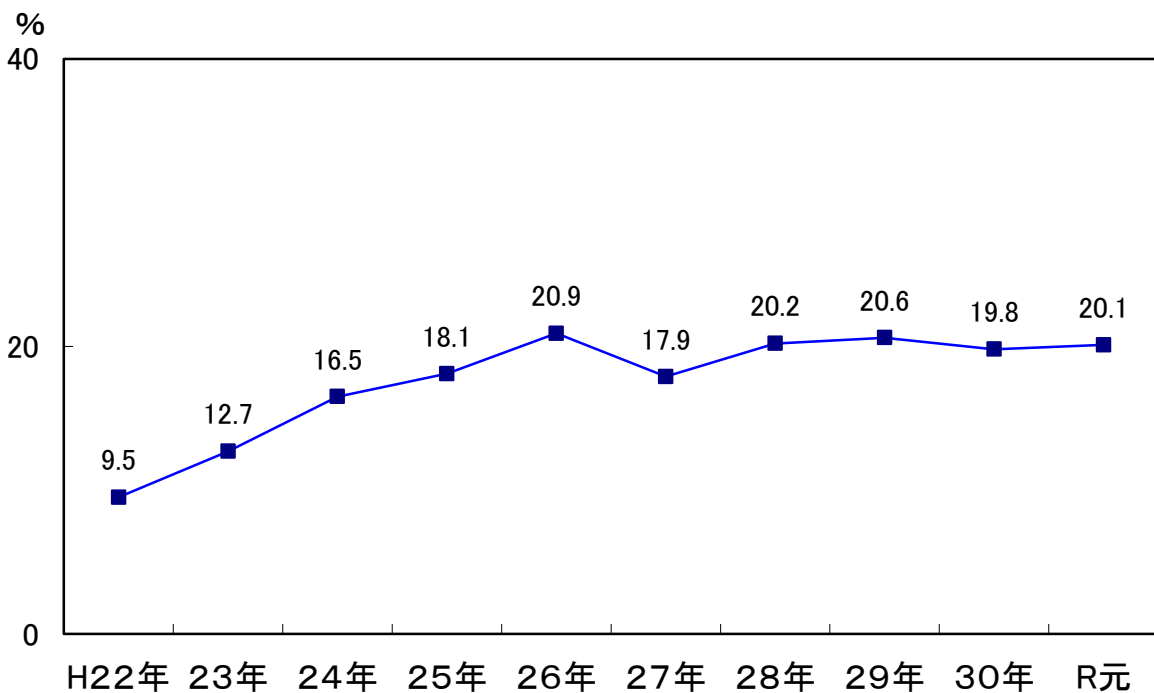


図-13 被害金額全体に占めるシカ被害の割合の推移

作物別の被害金額では、角コスリ等による造林木への被害が最も大きく全体の57%を占めており、次いで水稲・野菜・果樹の順になっています。

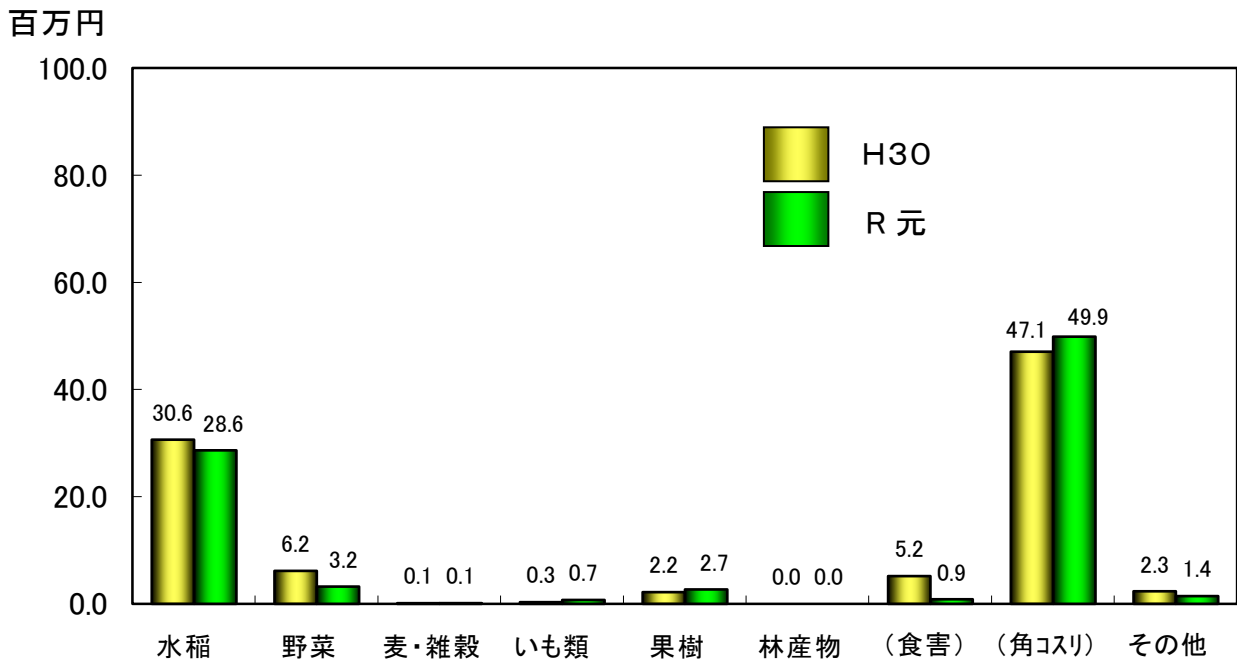


図-14 シカによる作物別被害金額

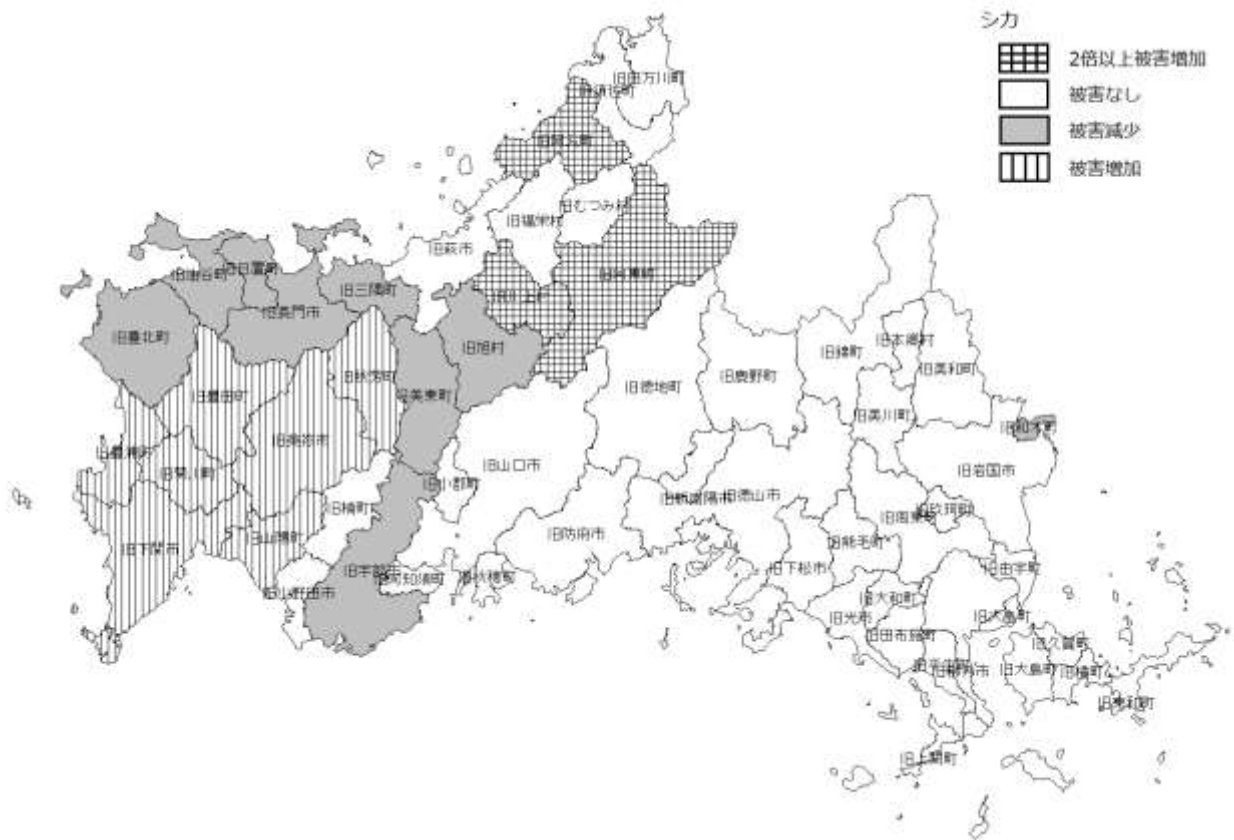


図-15 シカ被害の発生地域（旧市町村別被害額の増減）

(4) クマ

クマによる被害は平成22年度に大幅に増加し、その後減少傾向にありましたが、平成28年度に増加し、令和元年度は対前年度比18%減の320万円となっています。

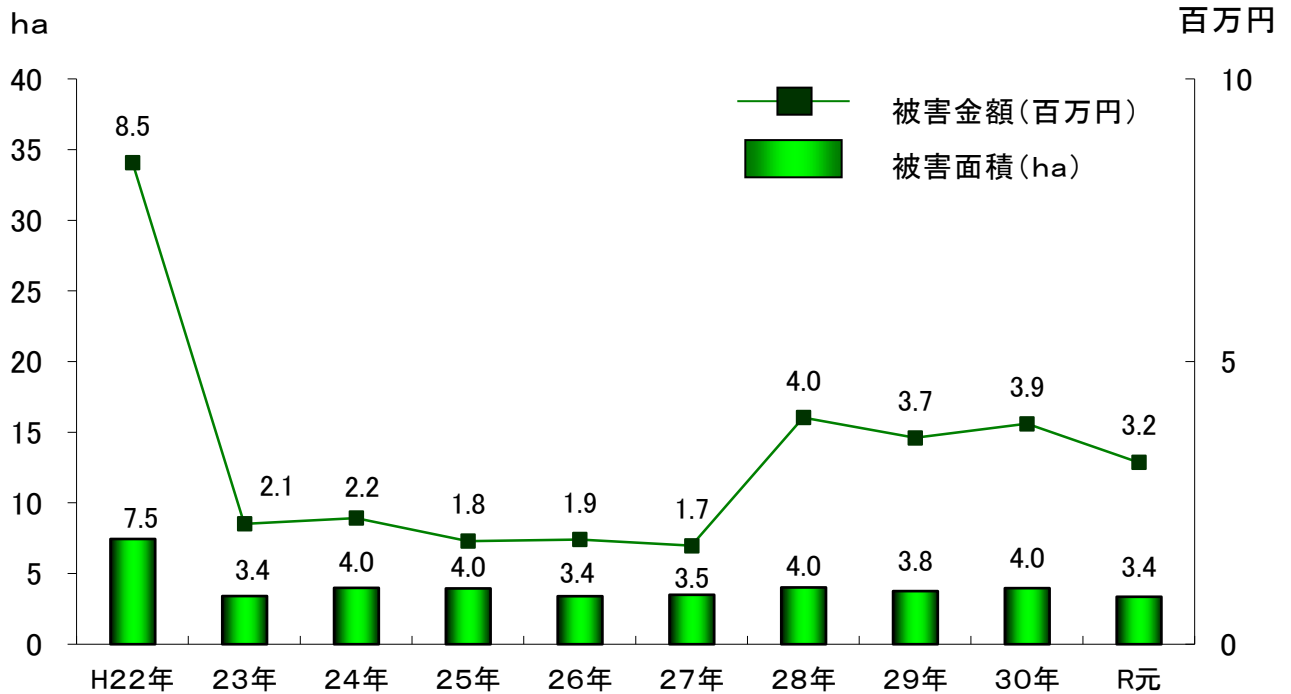


図-16 被害面積及び被害金額の推移 (クマ)

被害作物は、果樹のみとなっています。

百万円

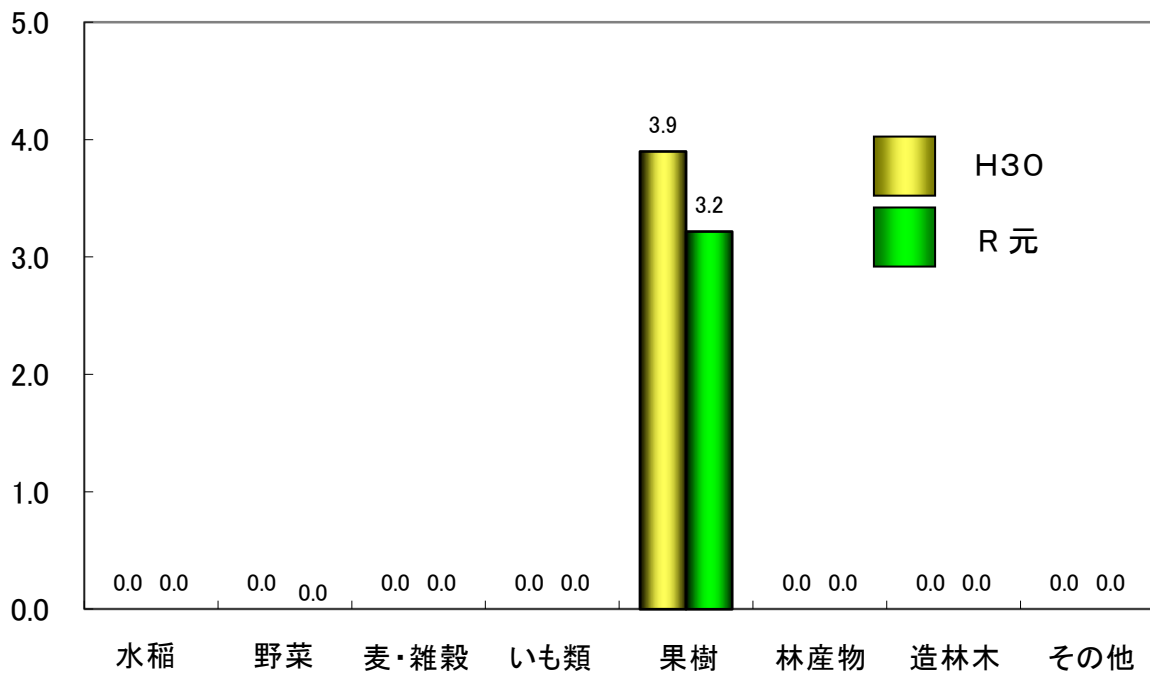


図-17 クマによる作物別被害金額

(5) タヌキ

タヌキによる被害は近年減少傾向であり、令和元年度は対前年度比29%減の560万円となっています。

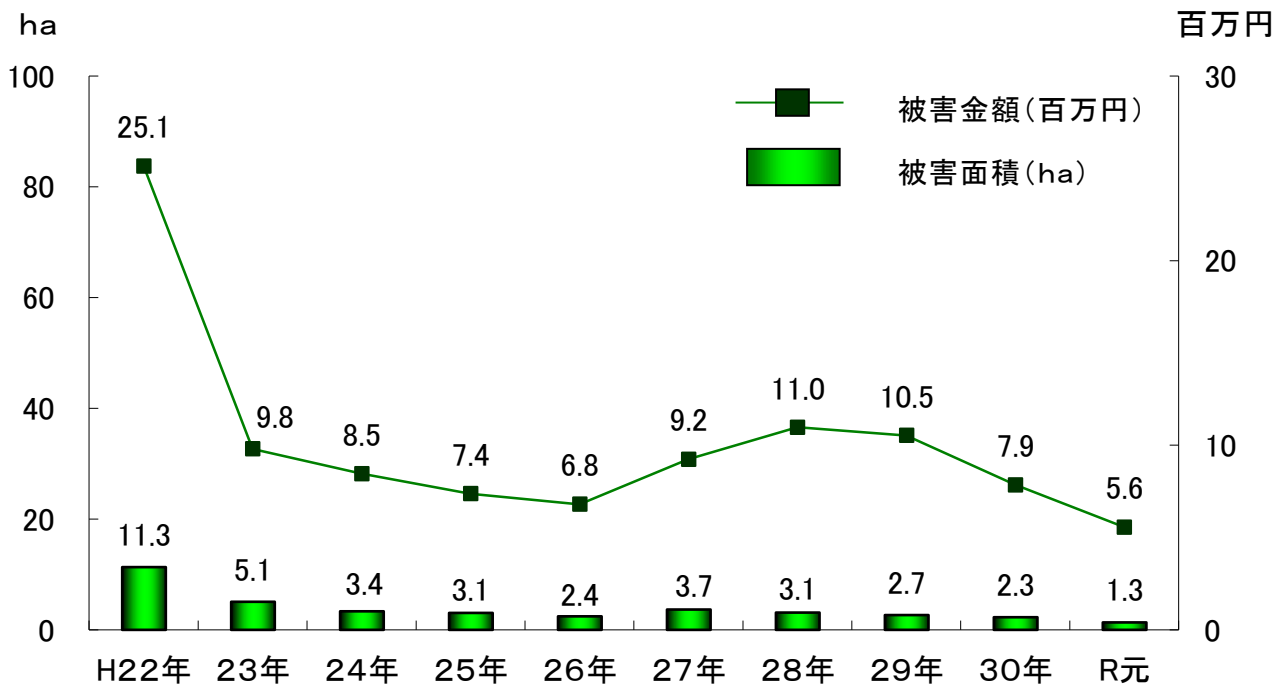


図-19 被害面積及び被害金額の推移 (タヌキ)

作物別の被害金額では、野菜と果樹の被害が大きく、全体の9割以上を占めています。

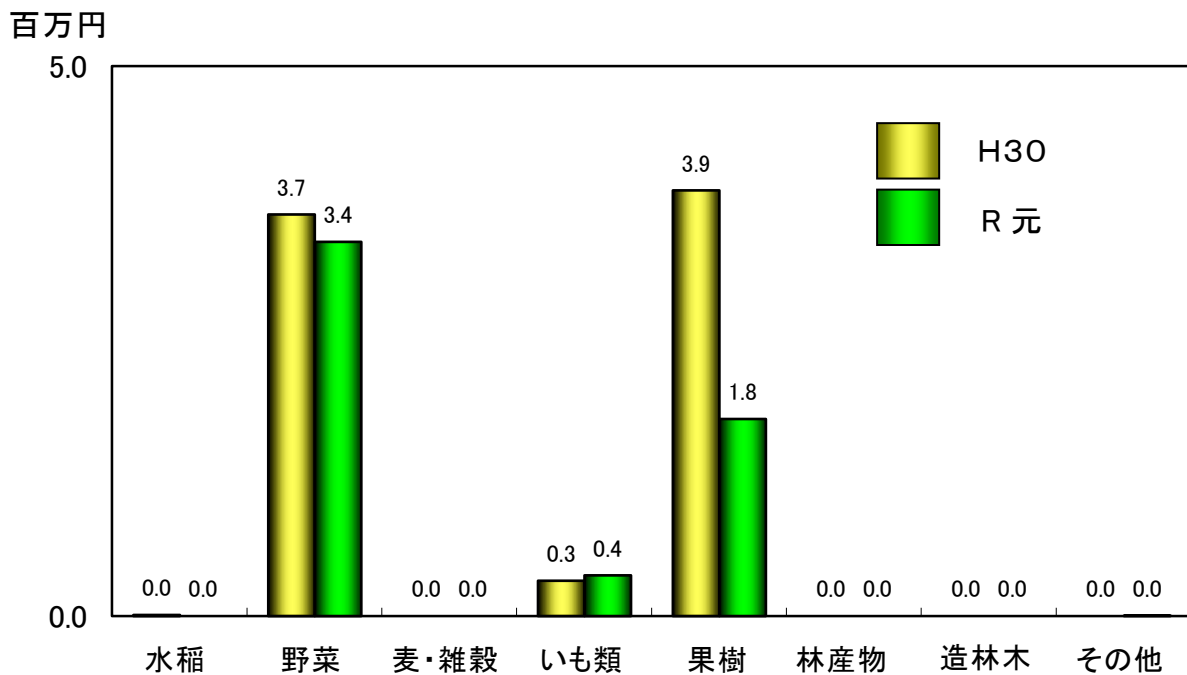


図-20 タヌキによる作物別被害金額

(6) その他の獣類

その他の獣類による令和元年度の被害金額は、対前年度比40%減の9百万円となっています。

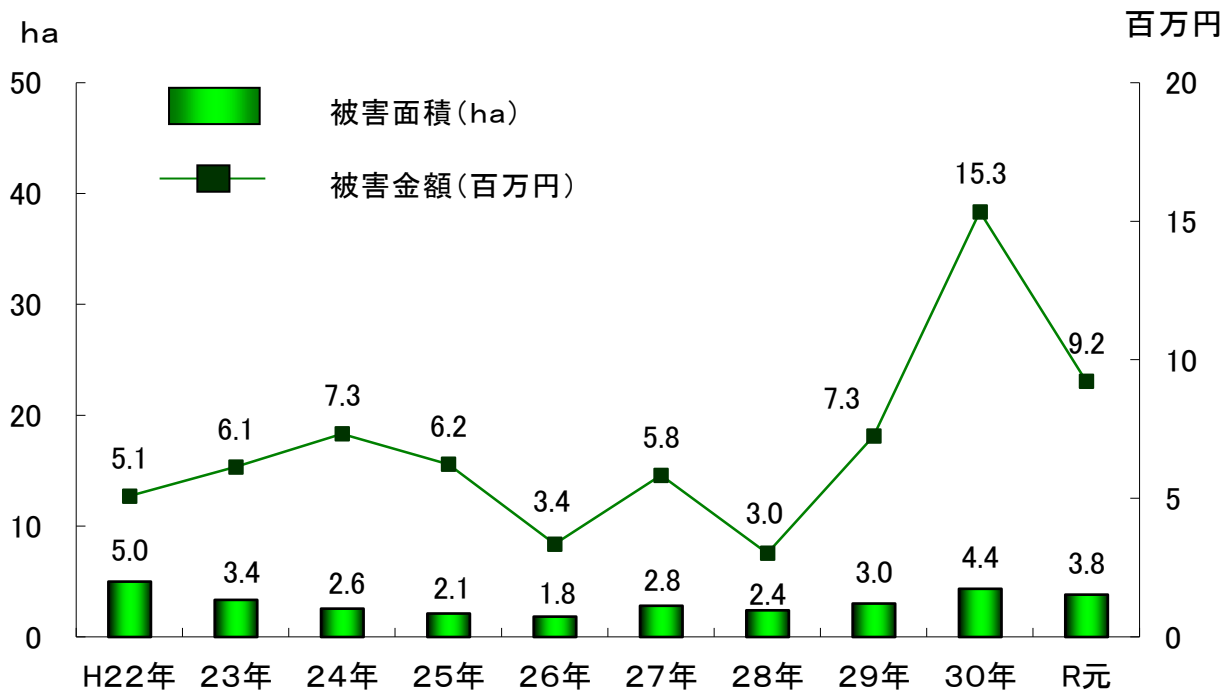


図-21 被害面積及び被害金額の推移（その他獣類）

全体的に被害額が減少している中、ヌートリアの被害が増加しました。

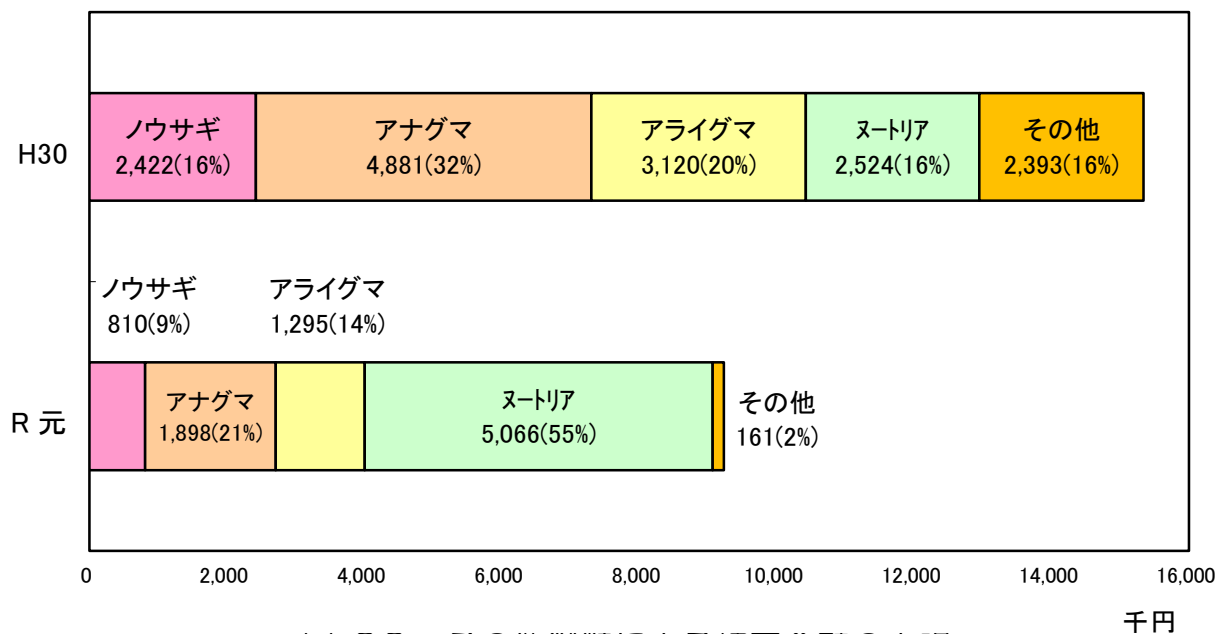


図-22 その他獣類による被害金額の内訳



図-23 アライグマ被害の発生地域（旧市町村別被害額の増減）

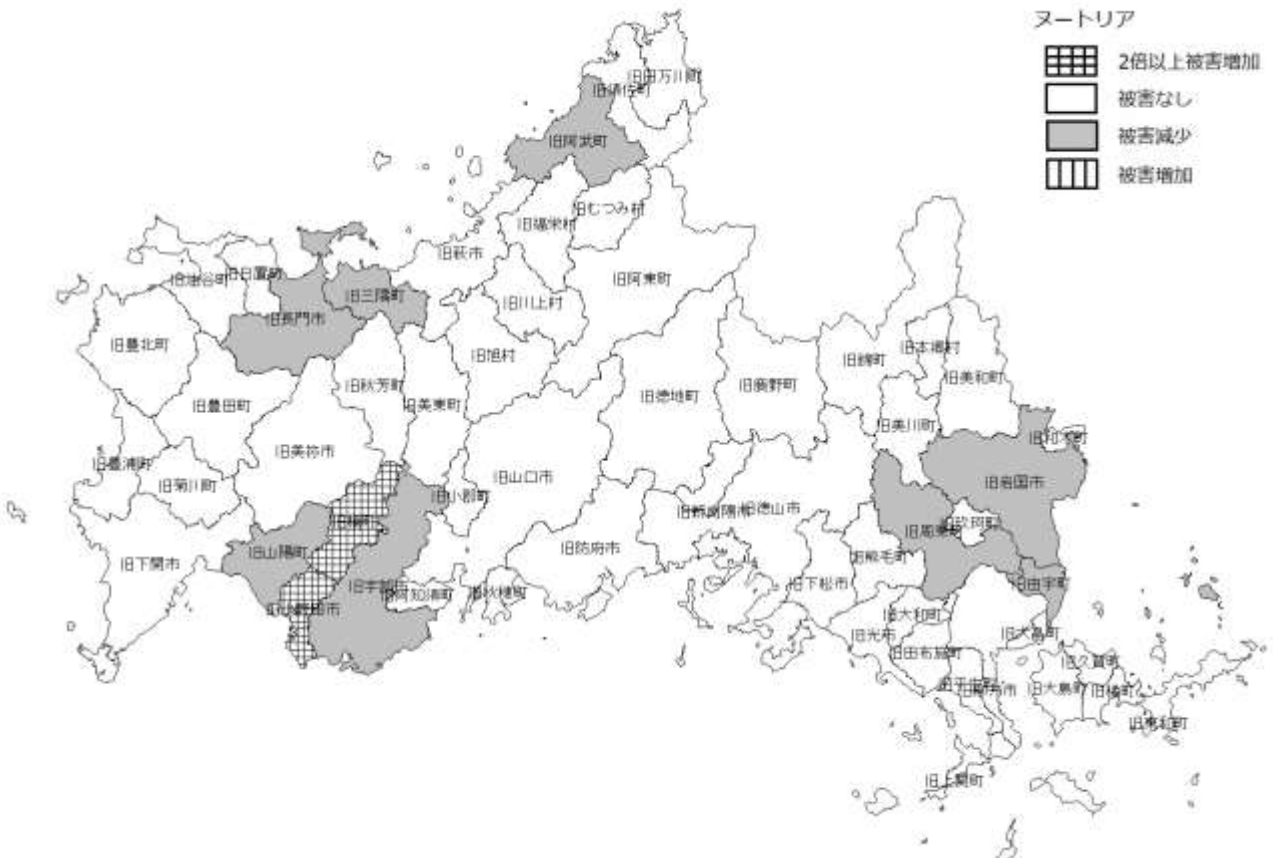


図-24 ヌートリア被害の発生地域（旧市町村別被害額の増減）

3 鳥類による被害状況

鳥類による令和元年度の被害金額は、前年度とほぼ同額の5千1百万円となっています。

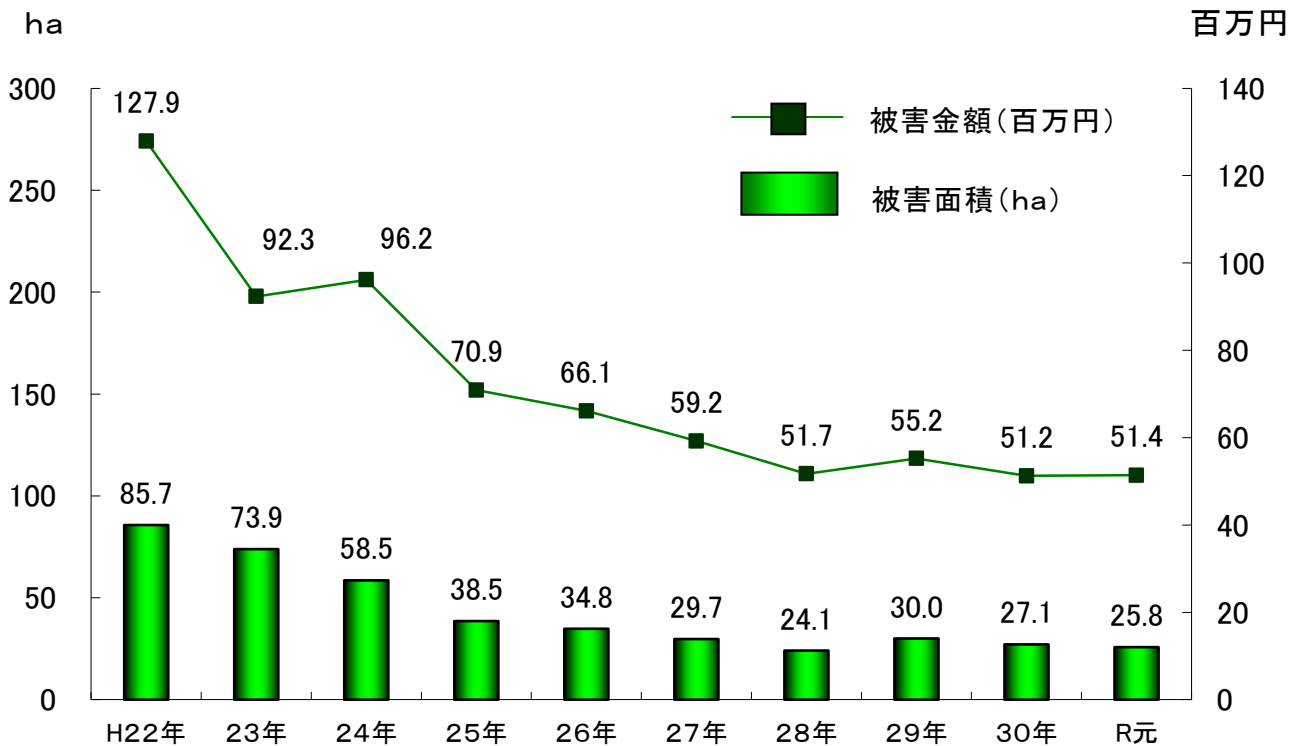


図-25 被害面積及び被害金額の推移（鳥類全体）

被害額全体に占める割合は近年、11%前後で推移しています。

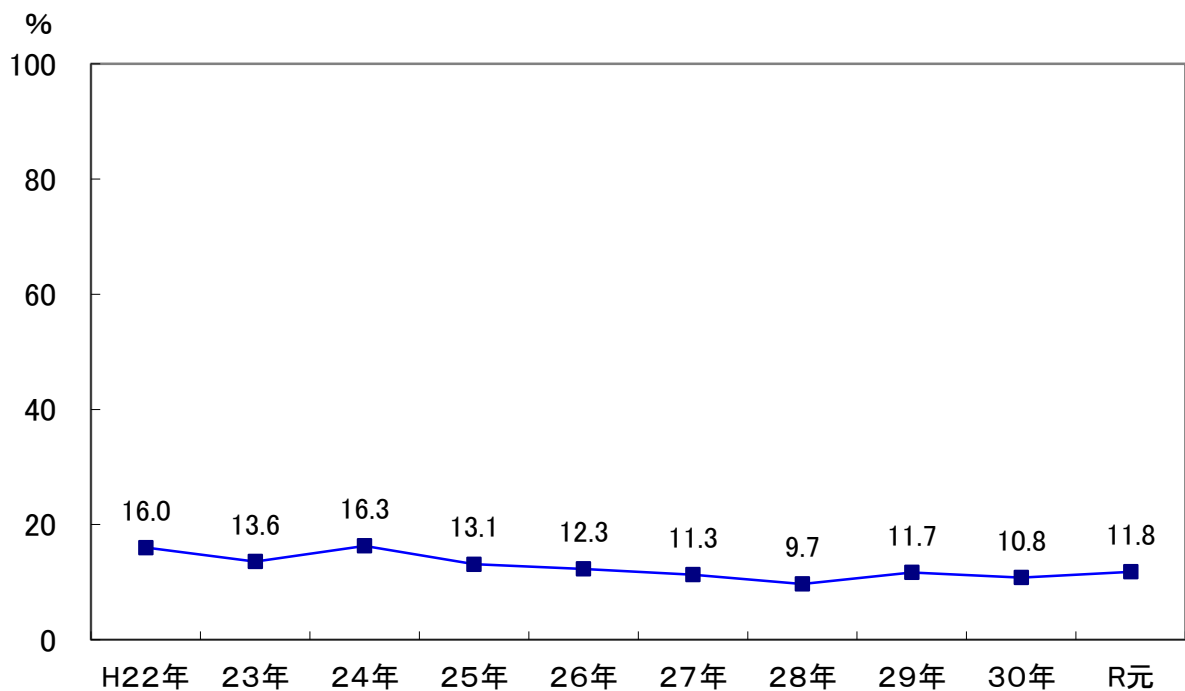


図-26 被害金額全体に占める鳥類被害の割合の推移

ヒヨドリの割合が減少し、カラスの割合が増加しました。また、スズメの割合は横ばいとなりました。

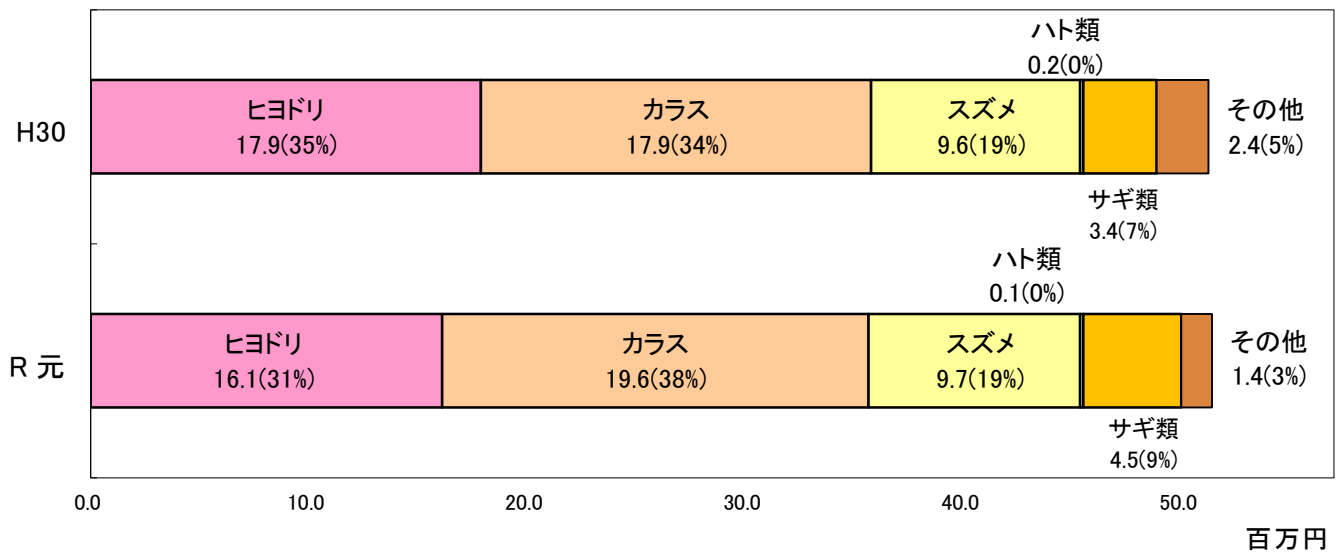


図-27 鳥類の種類別被害の内訳

鳥類の作物別の被害金額では、果樹が最も大きく次いで水稲、野菜となっています。

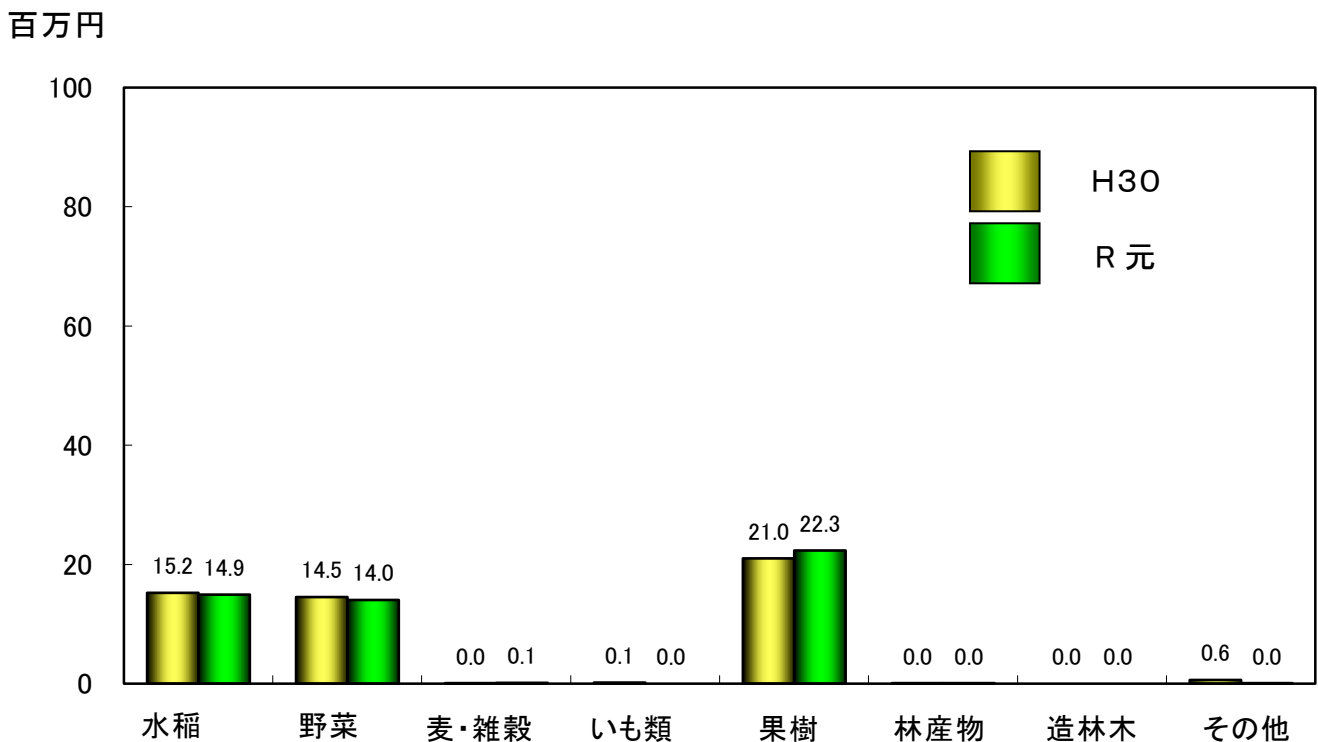


図-28 鳥類による作物別被害金額